

日本カイロプラクティック徒手医学会 第18回学術大会

テーマ 『ロコモティブ・シンドロームにおけるカイロプラクティックの役割』

日時 平成28年10月15日(土)・16日(日)

場所 ウィンクあいち メイン会場 902会議室

参加費 会員19,000円 非会員38,000円 学生10,000円 (懇親会費を含む)

受付時間 15日(土) 12:30 ・ 16日(日) 9:00

開演時間 15日(土) 13:00 ・ 16日(日) 9:20

申し込み先 日本カイロプラクティック徒手医学会 (JSCC)

<http://jscenet.org>

非会員の方は、上記のホームページの入会のご案内にあります事務局宛にお申し込みください。受付後、郵送にて参加要項(振替用紙)をお送りいたします。なお、お申し込みはお振込みを持って完了をいたします。

「膝関節障害に対するカイロプラクティック検査と治療」



日本カイロプラクティック徒手医学会会長 中川貴雄 D.C.

全国で3,000万人の方が痛み、腰痛、肩こりに続いて3番目に治療を受ける方の多いのが膝の問題です。脊柱ではないため、カイロプラクティックでもあまり詳しく勉強しません。また整形外科においても疾患名はわかっても、実際の治療法がない部位です。今回は、この国民病の一つである膝の障害に焦点を当て、カイロプラクティックの検査法である膝のモーション・パルペーションとその検査結果に基づく治療法であるモビリゼーションを、どのように臨床に使えばよいのか、デモを交えてお話ししたいと思います。

コントラインディケーション講座「症候からの鑑別の見立て」



フィニッシュカイロ 脳身研究所 所長 荒木寛志

日常の臨床において見落としとしてはならない「禁忌疾患」に遭遇する事ことは逃れられない。もし問診と検査の段階でいち早く禁忌疾患を見抜いて専門医へ送る事は患者さんを助けるばかりではなく、術者ひいてはカイロプラクティックを始めとする徒手療法が社会的信頼を得るためには必須のものである。今回は患者さんが訴える症候をいくつか挙げ、それが禁忌疾患と予想されるケースを紹介してみる。



大会長挨拶

カイロプラクティック快晴堂院長 阿知波正人



テーマはロコモティブ・シンドロームといたしました。ワークショップを実技講習に近づける。昨今の徒手療法の安全性への問題提起を踏まえて、安全対策であるコントラインディケーション講座など新しい試みをします。ぜひ、名古屋へお越しください。

【ワークショップ】

「下肢の安定性と運動機能性」

スズキ・カイロプラクティック院長 鈴木喜博D.C.



ロコモティブシンドロームの原因の内、筋骨格系の軟部組織や末梢神経系の障害に対して、カイロプラクティックや徒手療法は回復への役割を十分に果たせると考えています。今回のワークショップでは、骨盤から下肢に付着する筋肉および股関節と膝関節の機能度について取り上げ、「姿勢制御」と「移動性機能」に関する筋肉の重要性について話をします。

筋・腱・靭帯の機能回復（柔軟性）が関節の可動性回復と痛みの軽減に繋がり、多くの人がつらくない日常生活を送れるようになる、そのヒントとなれば幸いです。

「椎間孔テクニック（後編）」

～椎間孔内神経根障害に対する手技アプローチ～

伊藤カイロプラクティック オフィス院長 伊藤彰洋D.C.



去る2014年の学術大会（金沢市）のワークショップにおいてご紹介した「椎間孔テクニック」の続編になります。このアプローチ法の目的は、神経絞扼障害、とりわけ椎間孔内における神経根障害を手技により改善させるというものです。不適切な方向や方法によるアジャストメントは脳活動の機能低下をもたらすと言われているため（Carrick, et al）、

機能的神経学そしてバイオメカニクスの観点から整合性のあるcoupled motionを使った手技を用います。前編ではカバーしきれなかった下肢症状に対する手順や、とりわけ上肢における症状の強い患者に対する応用の仕方をご紹介します。

「ロコモにみられるトリガーポイントの臨床」

ホリスティックヘルス大谷治療室院長 大谷素明D.C.



ロコモの原因である運動障害のなかにTrPによる痛みという項目が見つかりません。股関節部、崙径部、殿部の痛み、そして坐骨神経痛、膝痛、足の痛みなどTrPの関連痛と考えられるものが多くみられる。関節の器質的な問題が存在していても、その問題とは別にTrPが痛みの原因だったりすることがあります。TrPの見つけ方と施術、セルフケアについて

やっていきます。カイロプラクティックを補完する痛みのケアの方法として有用です。

「ニューロファンクショナル・コンディショニング」

－ マークスボードを使用した機能神経学アプローチ法 －
マークスボディデザイン代表 江口典秀
(公財) 日本オリンピック委員会専任メディカルスタッフ



私たちの身体がトレーニングという刺激を受け入れるには、反応を実行する効果器の制御を行う神経系に対して、受け入れに都合の良い精度の高い準備状態を作り出しておく必要があります。ニューロファンクショナル・コンディショニングとは、トップアスリートも実践するマークスボードを使用して神経系を調整する運動前の新たなコンディショニング方法です。今回は、実際にマークスボードを使用して体験できる参加型にてご紹介致します。また、特定のエクササイズによりブラインドスポットの大きさが変化する方法など、スポーツのみならず様々な症状に対する機能神経学アプローチ法として役立つ可能性についても交えお伝え致します。

「仙腸関節の臨床」

よしおかカイロプラクティック研究所所長 吉岡一貴



仙腸関節はカイロプラクティックのみならず、多くの徒手療法において重要な関節として注目されてきました。仙腸関節矯正を主眼としたテクニックも多数開発されていることから、先人たちがそこを特別な関節と位置づけていたことを窺い知ることが出来ます。しかしその一方で、私の思い過ごしかも知れませんが、現在では単なる手続きとしてその矯正は行われる傾向すらあるように感じることもあり、臨床的意義を実感されている施

術者は、実はあまり多くないのではないかと予想しています。仮にそうした方がいるのであれば、それは間違いです。仙腸関節ほど実践的で即効的な変化の期待できる関節は他にはありません。今回のワークショップでは、仙腸関節矯正が有効性を示す割合の高い症状を紹介しつつ、それらの変化を通して、その重要性を会場の皆様と共に再確認できればと考えています。

「カンに頼らない仙腸関節の変位判定」

桜カイロプラクティック院長 吉野和廣 医学博士



体の歪みや腰痛を施療するポイントは骨盤の歪みを正すための仙腸関節の変位方向を特定することにありますが、施術者の経験とカンに頼ることが多いので判定の決断に迷うことはないでしょうか。

演者は20年にわたり脊椎原性疾患の発症機序を科学的に探る臨床研究を行っていましたが、今回のワークショップは手技療法の不確実性を除く判定方法、さらに安全で容易な腹臥

位の骨盤調整法を公開するものです。私たちにとり、来院者がかかえる骨盤の歪みを的確に判定することが満足度の高い調整となり、慢性の腰痛患者が減ることにつながっています。学会関係の方、医業並びに同類似行為に関わる先生方にもご参加いただければ幸いです。